

2-31-2 上野東照宮（国指定重要文化財）

台東区上野公園 9 番

藤堂高虎（1556～1630）は上野山内の屋敷の中に、徳川家康を追慕し、家康を祭神とする宮祠を造った。これが上野東照宮の創建と言われている。あるいは寛永 4 年（1627）、宮祠を造営したのが創建ともいう。もとは「東照社」と称していたが、正保 2 年（1645）に宮号宣下があり、それ以後家康を祀る神社を東照宮と呼ぶようになった。

現在の社殿は、慶安 4 年（1651）、第 3 代将軍家光が大規模に造り替えたもので、数度の修理を経ているが、ほぼ当初の姿を今に伝える。社殿の構造は、手前より拝殿、幣殿、本殿からなり、その様式を権現造りという。社殿は都内でも代表的な江戸時代初期の権現造りで、華麗荘厳を極めている。

唐門、透塀は社殿とともに構造、様式が優れており貴重であることから、参道入口の石造明神鳥居、唐門前に並ぶ銅燈籠 48 基と合わせて国の重要文化財に指定されている。

平成 21 年 3 月

台東区教育委員会
説明板より